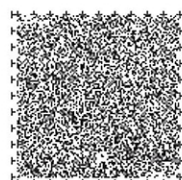


企業のトップが考える「地域との共生」



株式会社ジェック
経営コンサルタント
代表取締役社長

山瀬 孝氏



誠心誠意の精神で

1991年、地元中堅中小企業のみなさまの経営サポート、地域活性化に貢献したいという思いで創業しました。「誠心誠意」をモットーに、経営戦略の立案からマーケティング、組織開発、研修までをワンストップでお手伝いしています。富山県を中心に北陸3県から東海3県までの中部6県で、ベンチャー企業から中堅中小企業まで1300社ほどのお客さま

のコンサルティングを担っていますが、これが何においても当社の宝です。製造業や建設業、小売業、サービス業、学校、病院と、多岐にわたっています。

当社の新社員には、「お客さまへ積極的に提案してください」とアドバイスしています。「お客さまが我々を育ててくださっている」という面もあり、実践と体験の積み重ねがコンサルタント育成に繋がっていると思います。

販路開拓の支援をする中で、9年前に北陸自動車道の有磯海サーブスエリア(上り線・滑川市)の運営を始めました。いまでは、北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅に隣接する黒部市地域観光ギャラリーの土産店「のわまー」と、黒部峡谷鉄道・宇奈月駅から樺平駅までの売店・レストラン、魚津駅構内の魚津特産物販売店「ミツマルシエ」、海王丸パーク内の「CREW CAFE」

「E」、イオンモール高岡内の工芸品の店「ティ・オークル」、道の駅「雨晴」のほか、岐阜県内に3つ、愛知県で2つの飲食・販売店舗を運営しています。赤字店舗もありますが、物販事業を通して地域活性化がコンサルト会社としてのミッションの一つと思ひ、運営に携わっています。

新型コロナウイルスの影響で観光事業者である当社も打撃を受けています。その中で、在庫を減らしたり、勤務シフトを見直したり、店内の動線を変更したりしながら、利益を出している店舗もあります。逆境の中で成長するスタッフたちのたくましさを感じます。30歳くらいの若いスタッフを責任あるポジションに配置するようになっていますが、それも功を奏しているのかもしれない。会社を支えてくれるのは、やはり人ですね。

富山と世界の懸け橋に

2015年に北陸新幹線が開業しましたが、その時、北陸はもつと世界と繋がるべきだと感じました。極端に言えば、東海道新幹線から50年もかけた新幹線をこのままで良しとは思っていません。首都圏に「極集中するよりも、夢・目標を大きく持ち、地方から全国、世界へ発信できるような企業がもつともつとあればと願っています。東京に対する反骨精神を持つてもいいのではないのでしょうか。それが地域社会の活性化にも繋がると思っています。

中国・上海、台湾・台北、タイ・バンコク、カンボジア・プノンペンでも事業展開しています。北陸と中部、東アジア、東南アジアを結び、懸け橋のような地方の会社でありたいと思っています。

当社は富山県のサポートデ

スクとして、台湾や上海事務所にも富山県の看板を掲げさせていただきます。一方、富山本社の事務所は蘇州市相城区のサポートデスクです。私どもが上海に富山県のデスクを構えるように、中国も政府のデスクを日本に構えてもおかしくありません。そのデスクを北陸に置いていただいでいて、私どもが担当しているわけです。行政府との繋がりをもとに日中両国の民間企業がそれを活かせるようなことになればと思っています。

「民間でできることは民間で」という動きを最近とても感じます。そういう中で辛抱しながらチャレンジし続けられれば、何か大きく動くことがあると信じて頑張っています。